社会福祉法人Cにおける社会貢献活動に関する資料

1 社会福祉法人Cの概要

(1) 所在地

神奈川県

(2) 施設の種類

児童養護施設

(3) 活動概要

活動時間は、1時間程度。活動内容は、社会福祉法人Cで生活する子供（以下「入園児」という。）の遊び相手になることであり、日によって内容は変わる。

活動開始前にはあえて施設の詳細は説明しない。活動後は、施設職員と昼食を食べながら活動について振り返る。その際、参加した保護観察対象者の理解度に合わせ、施設の概要について説明している。

2 社会福祉法人Cからの意見

(1) 社会貢献活動へ協力することを決めた理由について

- ・保護司を務めている自分のもとに面接に来た保護観察対象者と自分の子供が接する姿を見て、保護観察対象者は、子供と接することを通じて、自分自身の幼少期を振り返り、親との関係を見つめ直す機会になるなど、良好な変化が生じることを実感するようになった。
- ・入園児と保護観察対象者が接することで、同じような変化が生まれるのではないかと考え、社会貢献活動の試行が始まった際、活動場所として利用してもらうよう自ら横浜保護観察所に申し出た。

(2) 社会貢献活動の実施に当たり、工夫していることについて

- ・入園児の遊び相手になる時間は、入園児の興味が持続する1時間程度と決めており、保護観察対象者が入園児から必要とされている感覚を味わえる時間内で、活動を終了させるようにしている。そうすることで、入園児の方も自然と「またねー」、「ありがとう」と言い、保護観察対象者

が達成感を得た状態で活動を終わることができる。

- ・新奇性がなくなると、入園児は興味がなくなることから、できるだけ初めて活動に参加する保護観察対象者を優先し、歓迎されているという感じを出せるようにしている。
- ・活動後は、昼食を食べながら、振り返りをしている。昼食を共にすることで、雰囲気が和み、保護観察対象者も本音で話しやすくなると考えている。
- ・保護観察対象者がどの入園児にも相手にされないことはほとんどないが、もしそうなった場合は、職員が入園児に対し、「●●さん（保護観察対象者）に遊んでもらったら」と声を掛けるようにしている。
- ・通常、日中は入園児の人数が少なく、社会貢献活動参加者の数の方が多くなってしまうため、夏休みや冬休みなど、幼稚園に通う入園児たちが日中も施設にいる長期休暇中に活動を実施するようにしている。

(3) 社会貢献活動の実施に当たり、困ったことについて

- ・活動中に困ったことは特にないが、何らかの理由で活動に来られない保護観察対象者がいることや、日中にも多くの入園児が施設にいる時期は限られているため、活動を充実させることを考えると、活動回数を多くすることが難しいところは課題であると感じている。
- ・一度、活動に参加した保護観察対象者から、もう一度参加したいという希望を受けることがあるが、活動の回数が限られているため、その希望に沿うことが難しい。

(4) 社会貢献活動へ協力して良かったと感じたことについて

- ・活動前には面倒くさそうな顔をしていた保護観察対象者が、活動を終わって帰る頃に笑顔になっているのを見ると、協力して良かったと思う。はっきりした変化ではなくても、今後、変化が期待できそうだと思うような兆しがあるだけでも良い。

(5) 保護観察対象者にとっての社会貢献活動の効果や意味について

- ・保護観察対象者は、「親が悪い」、「先生が悪い」など、他罰的になりやす

い。「自分も悪い」と思えるようになるためには、自分が他人から求められる経験が必要だと思う。入園児と一緒に遊ぶ中でそのような経験をすることができると考えている。

- ・自分とは異なる環境で生活する入園児たちと接することで、自分が置かれている環境を振り返る機会になり、自分のことを客観的に見ることができるようになると思う。
- ・保護観察対象者の理解度に合わせ、児童養護施設の役割について説明しており、児童養護施設に関する興味・関心が高まれば、教育的な効果も得られると思う。

(6) 今後、他の福祉施設に新たに社会貢献活動に協力を求める際、留意すべきこと

- ・自分自身は保護司であり、保護観察対象者の対応には慣れているし、他の職員も保護観察対象者に対する抵抗は余りない。一方、他の施設の中には、保護観察対象者の対応に慣れていない施設もあると思う。そのような施設では、施設利用者の安全等を考慮して活動への協力をちゅうちょする場合もあると思う。

(7) 福祉施設との情報共有について

- ・保護観察所からは、参加人数・性別・年齢に関する情報しか提供を受けていない。ただし、子どもに対する性犯罪をした保護観察対象者は受け入れられないと伝えている。
- ・情報を知らない方が、先入観なく保護観察対象者と接することができるし、必要以上の責任を感じない。知ってしまうと、活動後の生活状況等も気になってしまう。
- ・犯罪・非行内容を知ってしまうと、気持ちが引いてしまう面もあると思う。

(8) その他の意見・提案等について

- ・海岸清掃の社会貢献活動に、自分が担当していた保護観察対象者を連れて行ったことがある。その活動は、他のボランティア団体が主催してい

るものであり、ゴミを拾う前後に裸足で海岸を歩くというプログラムが組み込まれており、その体験はとても良かったと記憶している。

- ・対人の活動でなくとも、このように体験し、感覚に残る活動ができれば、意義のある活動になると思う。

3 印象に残った事例

(1) 女子少年

- ・性の逸脱やリストカットなどの問題がある少年。
- ・4, 5年前に実母とともに2回活動へ参加した。
- ・女子少年自身は、入園児の対応がうまくできなかったが、母親はうまくできている様子を見て、少年自身が幼かった頃の話など、親子間で会話が生まれた。この活動をきっかけに親子関係が良くなったと聞いている。

(2) 男子少年

- ・高校進学を希望していたが、学力的に厳しく、不就学であった少年。
- ・最初はしぶしぶ活動へ参加したが、入園児のあやし方は上手で、活動を気に入った様子だった。
- ・2, 3回活動へ参加し、保育の仕事をしたいと話していたが、その後、再非行をしたと聞いている。